

令和4年度

合格者の失敗談・ おすすめの学習法・ 受験生へのメッセージ集

VOL.1 23 目標58セミナー等登壇者から

巻末：58合格者アンケート結果(P.14-)

No	論文合格時の状況
1	庄司さん(社会人→専念、短答リスタート 58 通信→津田沼校)
2	古川さん(大4 初年度 58 梅田校)
3	城さん(大3 初年度 58 京都校) 関西各校舎チューター
4	氏田さん(大4 初年度 58 新宿校)
5	馬場さん(大4 初年度 58 京都校)
6	有村さん(卒1 短答リスタート 58 横浜/日吉校)
7	野方さん(大4 初年度 58 京都校)

※各合格者のテキスト写真は、別冊で Web School「教材」欄へアップロード。

1 庄司さん(社会人→専念、短答リスタート 58 通信→津田沼校)

1/23・1/27 Q&A・1/29 水道橋等

失敗談

短答の話ですが、働きながら勉強していた頃、計算を放置して理論でカバーしようとしてしまっていました。平日4時間程度しか使えなかったので、計算問題をやると2、3時間経ってしまい理論をやる時間がなくなってしまうから…と、計算を放置する傾向にあり、直前期も理論重視でした。結果として監査や企業は8割取れるのに、計算は5割ちょっとに留まり、2～4%足りず短答に2回落ちてしまいました。

さらに、短答直後から2,3 か月は計算を強化すべき重要な期間だったのに、5月不合格後、解放感から勉強量を減らしたり、見込みが微妙なのに租税経営を沢山やったりしたことも敗因だったように思います。そもそも自分の立ち位置とゴールを見据えていなかったことで、危機感を持たず計算を疎かにしてしまっていたなと思います。(何点取ると決めすぎるのもよくないですが)

短答では、70%が一応の合格基準であり、5点問題で1%動きます。そうすると、各科目どういうバランスで何点を得点すべきで、計算2問落とすと3%下がり合格確実圏から不合格圏内に入ると具体的に見えてきました。

また、監査審査会発表の合格者調を見て、ボーダー未満の数パーセントには、合否判明時点で次の短答に合格する可能性が最も高い人が何百人いて、次回短答の合格者はおおむね何百人になりそうなのか？自分はそこに至るためにどのくらい必死で何をすべきなのか？ということも全く考えていませんでした(論文も同様に、会計学が3科目分の重みになるという意味を、全科目単位で試算して初めて理解しました)。

自分の立ち位置と1問の価値が分かると、細かすぎて面倒だと思う暗記を放置したことや計算を疎かにしていたことが、非常に愚かに思えてきました。

多くの受験生の皆様は自分の立ち位置とゴールを意識した学習をしていることかと思いますが、参考までに、失敗談として記載しておきます。

おすすめの学習法

時間が限られるため、分かっている部分を慎重に読み過ぎたり、タイムロスが起きないようにするため、分かっている部分などすぐに見返せるように、付箋を活用していました。

企業法テキストでは、論点のページにだけ緑の付箋・理解不足の論点には青の付箋を貼り、論点を検索したいときには緑だけを周回したり、理解不足の論点を詰めたいときには青だけ周回したりしました。

各教科とも、4月頭までにどうしても覚えが甘い部分を見つけて付箋を貼っておいて、回転期に重点的に回せるようにしました。

受験生へメッセージ

短答リスタート生の方へ

ボーダー付近の方は、現時点で次回短答受験者のトップ層です。ボーダーから遠かった方も、論文への素地をきちんと学び直せる機会と時間が与えられ、合格に最適な道が改めて敷かれたと考えられます。自分の弱点との向き合いを怠ることなく、意欲的に次の5月を戦いに行っていきたいです。

58 受験生の方へ

58 受験は負け戦ではなく、むしろ誰よりも網羅的で詳細な知識を蓄えた状態で戦える最高のワンチャンスです。学習量の面で焦りを感じる場面もあるかとは思いますが、気持ちで負けない事が一番大事です。

体調にも気を付けて、5月を着実に勝ち取り、8月に繋げましょう。

社会人→専念生の方へ

専念に漕ぎ出すと、人と喋る機会が急になくなり、心が不健康になりがちです。学習相談や質問等をこまめに活用して人と話し、勉強時間などに簡単なノルマを設定して小さな成功を積み重ねるなど、仕事をしていた時と今の勉強環境を近づけると捗ります。振り返った時に後ろにある全ての物事は、あなたが前進するための燃料です。過去に捉われず、勝ちに行きましょう。応援しています。

2 古川さん(大4 初年度 58 梅田校)

1/23 Q&A・2/4(土)zoom 質問ルーム 9-11 時

失敗談

12 月短答まで、休憩なしで勉強をしていたのが良くなかったと思います。

おすすめの学習法・質問コーナーの活用について

会計士試験は理解がとても大切だと感じたので、人に説明できるぐらいまで理解するように努めました(私は、質問コーナーで講師に覚えた論点を説明して、理解の確認をしていました)。

受験生へのメッセージ

自分の場合、12 月短答時点でボーダーの 3%程度下でした。今を楽しんで後で苦しむか、いま苦しんで後を楽しむか。まだ選択肢があります。約 8 ヶ月頑張れば明るい未来が待っているので、頑張りましょう！

3 城さん(大3 初年度 58 京都校)

1/23 Q&A 登壇・2/4(土)zoom 質問ルーム 9-11 時 関西各校舎チューター

失敗談

テキストの色分けは、学習当初からやっておくべきだったと思いました。

また、問題集を回すだけの勉強は、勉強しているような感覚に陥るのですがあまり知識として定着していないように感じたので、やめておくべきだったと思いました。

おすすめの学習法

私は答練で得た知識を全てテキストに一元化していったので、テキストを見るだけで答練の復習もすることが出来て効率的でした。

メンタルは割と弱い方だったので、同じ受験生の友達に弱音を吐いて少し励ましてもらったり、講師やチューターなどに今の悩みを聞いてもらっていました。

質問コーナーは講師には勉強の内容の質問と学習相談や雑談、チューターの方々には、学習方法の相談や雑談をしてもらっていました。

受験生へメッセージ

私は12月短答時65%で、ボーダーの3%下でした。ボーダー予想が65-67%(本命66%)だったので、自分は無理だとしてもマイナス1%位で落ちるだろうと思っていたのですが、実際のボーダーは68%だったため、今の自分より上で落ちた人がもう600人近くいました。

そのため、5月短答はかなり厳しい戦いになると思い、心を入れ替えて自分に合った勉強方法を追求して必死に勉強しました。そのおかげで5→8を決めることが出来たと思っています。5→8は努力次第では不可能ではないので、頑張ってください！

4 氏田さん(大4 初年度 58 新宿校)

1/23 Q&A・2/4(土)zoom 質問ルーム 13-15 時

失敗談

財理について、私は 58 で時間がないのにも関わらず、試験上の重要性を無視して初めから網羅的に暗記してしまいました。重要性の高いものから順に勉強していくべきでした。

おすすめの学習法

財務理論

論文では要点を自分でまとめて理解に努めていました。この要点をもとに、まずは単語が出てくる、次にまとめた要点がでてくる、、、と段階を踏んで文章を暗記していました。

租税法

とにかくミスや暗記漏れ、忘れをなくするため、理論も含めミスしたら随時付箋に書き込み一元化していました。また、よく見る場所には付箋を貼って短時間で確認できるようにしていました。さらに、各章の表紙に手順やミスのポイント等も要約して、それを見るだけで解き方がわかるようにしていました。

受験生へのメッセージ

58 という意識を過剰に持ちすぎると不安が大きくなるので、自分には何が足りないのか、どう勉強すれば克服できるか、進捗は順調かを冷静に分析して、やるべきカリキュラムを一つずつ丁寧にこなすことが合格への近道だと思います。

58 だから、、、と努力することを諦めるのではなく、最後まで日々の勉強を積み重ねていけば必ず受かります。周りの友達を見たら就活をしたり、遊んだりしていて辛くなる時もあるかと思いますが、合格に向けて必死に勉強した経験は一生自分の糧になります！最後まで一緒に頑張りましょう！

5 馬場さん(大 4 初年度 58 京都校)

1/27 Q&A・1/29 水道橋・2/4(土)zoom 質問ルーム 11-13 時・

失敗談

最初の講義の段階でマーカーを引き過ぎないようにすればよかった。使うならフリクションのマーカーを使用するべきだった。

学習が進むにつれてテキストを頻繁に見るようになった時に、最初の段階で引いてしまったマーカーが邪魔になり、そのページを今後見る気が失せてその科目を勉強する気が余計になくなる。

資格試験の特性上、ある程度暗記することは割り切る必要があるが、かといって理解を疎かにして「この時はこう解く」という風なパターンで暗記してしまうと、答練などで A 問題が確実に取ることが難しくなる。この考えで論文の知識を蓄えようとすると、全く暗記することができずに、すぐに知識が抜けてしまった。そのため、「テキストのこの記載はなぜ載っているのか、どういう意味なのか」を 10 分でもいいから考える癖をつける方が印象に残り、頭から引き出しやすくなった。

おすすめの勉強法

5→8 だったため、各科目の論点の重要度を意識しながら、各論点の時間配分を行っていた。

財計・・収益認識、連結会計などの構造論点といった必ず出題される論点

財理・・概フレ、連結会計、企業結合などの短論両方で出題される論点

管理・・全部

監査・・短答 実施論>報告論>主体論>制度論

論文 実施論>報告論≧改正論点 (ex 監基報 315) >主体論

企業・・短答 組織再編、設立などの必ず出題される論点

論文 基本的な知識は短答で覚えているため

各テキストの論証例≧答練の論証>論文問題集の論証

*論文問題集の論証→各テキストの“活きた”論証例を見て

そこからテキストの重要なところを知る教材

租税・・計算→法人①>所得>法人②>消費

4 月に入るまでは、30 分~1 時間/日、アクセスでメンテ

理論→5 月短答後から理論テキストを 3~4 周で間に合う。

経営・・計算→テキスト①≧テキスト②

理論→テキスト③、テキスト④>直前テキスト

- ・財務アクセス・・・昼食べて一発目の科目に行く、夜寝る前の1時間だけ解く。

これで財計のメンテナンスはできるので、その分空いた日中の時間を他の科目に充てることができ、効率的に学習することができた。短答アクセスの選択肢を隠しながら演習をすることで、より正確性が増し、論文の問題でも難なく対応することができたと感じた。

- ・午後3時から5時くらいの1番眠くなる時間帯に、近くの公園や住宅街に行って歩きながら暗記を行う。時間としては30分程度。

- ・自分の場合は、苦手な監査論を散歩に行く前に勉強しておき、散歩の際に暗記の確認、強化を行っていた。これを4月、5月に行なったことで、暗記科目（監査論、財理、企業）の暗記の精度が格段に高くなったと感じた。

- ・スマホのリマインダー機能を活用し、上記で間違えた所をストックしていき、TACが終わる時間の21時半、翌朝の10時、翌日の散歩の時間、それができていれば、1週間後、2週間後と段々間隔を延ばしていき、長期記憶にしていっていった。

メンタル調整方法

「絶対に合格できる」と自分に言い聞かせていた。TACへの行き帰りや昼ごはんの時など自分が一人になるタイミングでつぶやいていた。そう思うことで、心なしか本当に合格できるのではないかと錯覚し、モチベが維持できた。

各答練後や帰り道など友人と雑談をすることで勉強から一時的に離れられるため、気分転換に最適だったと感じた。

質問コーナーの活用

短答・・・答練で間違えた理論科目について「なぜこれが間違いの肢なのか」を自分で考えてもわからない肢は全肢理解できるように、具体例について質問していた。計算科目は、テキストに記載されていない追加論点があった場合に、解説を読んでも全く意味がわからない論点や重要そうだと自分が感じた論点だけ質問に行っていた。

論文・・・理論科目では、テキスト等に記載されている内容がなぜ記載されているのか、仮に無かったら何がダメなのかを質問していた。これをするすることで、テキストの内容を深く理解することができるため、実際の答練・模試で書き漏れすることがなくなった。計算については、短答と同じ。

受験生へメッセージ

私は、12月短答はボーダーから2%下の得点率でした。当時、各予備校のボーダー予想は、自身の得点率である66%としており合格発表まで「もしかしたら合格なのではないか？」と淡い期待がありました。そのため、当日、番号がなかった時は気持ちが切り替えることをできないまま、基礎答練を受けていました。です。58になってしまった方々の気持ちは十分にわかつています。大切なのは、「腐ることなく前を向いて再び淡々と勉強すること」だと思います。

私の友人のほとんどは12月合格を決めていたため、「自分はどうせダメだ」と腐りかけていました。しかし、管理会計のある講師の方から「会計士試験は先入先出なので短答合格は12月か5月かの違いであり最終目標である8月論文は同じ」と励ましの言葉を頂き、前を向き直せました。その言葉から『あくまで短答は“通過点”に過ぎない』と気付かされました。

まず、12月短答の二の舞にならないためにも凹んだ企業法や各科目の勉強法の何が良くなかったのかを自分なりに分析、改善しました。そして論文の勉強も大事であるため、合格発表後から4月に入るまでは、12月合格者と同様にTACの論文のカリキュラムをこなしていました。この期間に論文の勉強をしっかり行なったことが5→8合格できた要因と感じています。

この時期にしっかり論文の勉強を行うことで5月短答後でも難なく12月合格者と肩を並べて本試験に臨めます。

8月にそのような状況にするためにも、前を向いて再び淡々と勉強してほしいと思います。精神的にも肉体的にもしんどい時期はありますが報われると信じて辛抱するしかありません。その分合格した時の嬉しさは相当なものになると思います。頑張ってください！応援しています！！

また、是非短答、論文関わらずTACの全国模試はA判定を全力で狙いに行ってもらいたいです！その理由として全国模試でA判定を取れば本試験でかなり自信と余裕を持つことができ、サプライズ論点が出題されても動揺することなく問題と向き合えるためです！

5月短答後の論文全国模試2回目でA判定を取るのは無茶だと思われたかも知れませんが、私でも取れたため不可能ではありません。案外、12月合格者は一部の層を除き、論文全国模試1回目から2回目までのこの期間は気が緩みがちであり、皆さんが思っているほどこの時期の論文生のレベル感とは高くなりません。結果としてA判定を取ることができなくても、5月短答合格者でも十分に8月論文合格を狙えるのだと感じていただきたいです。

そして、現在大学3年生の方の場合、周りが就活を行い始めて「このまま会計士の勉強を続けていいのか」と焦るかもしれません。その点に関して、私は全く心配する必要はないと感じます。

確かに、必ず合格できる保証がなく、友人との飲み場でも皆就活についての話で持ちきりで、「このままでいいのか」と不安に感じるとは思いますが。しかし、たとえ大学の同級生と比較し1、2年働きだすのが遅くなったとしても、その同級生達とは比べ物にならないくらいの経験ができ、必ず取って良かったと感じる機会があると思います。

今回のボーダー付近で惜しくも不合格になったのなら、尚更だと感じます。ボーダー付近であったということは、5月短答で合格できる可能性が大いにあり、その可能性を秘めたまま諦めるのは、判断が尚早であり今後ずっと心に残り続けると思います。むしろ、「5→8で合格する」という目標を達成する選択の方が後々後悔しないと思います。あくまで一意見として参考に見てみてください。

6 有村さん(卒 1 短答リスタート 58 横浜校/日吉校) 1/27 Q&A

失敗談

財理はテキストだけでなく論文 Q&A 集にも論文で書きたいところをマークして行っていたので、効率があまり良くなかったと思います。

マーカー・ペンの色の意味

財理 黄色が授業中に弾いた箇所、緑が暗記箇所、ピンクのアンダーラインが論文で書きたいところ

おすすめの学習法

論文問題集を使う時は、「テキストのどの部分に書いてあることか？」を思い出すように勉強していました。

受験生へメッセージ

周りが就職していく焦りや短答や論文への不安があると思いますが、その日その日にできることを積み上げて、最後まで諦めなければ絶対大丈夫です！頑張ってください！

7 野方さん(大4初年度 58) 1/27Q&A・2/4(土)zoom 質問ルーム 15-17 時

失敗談

何回も間違えた短答の選択肢をテキストに書き込む際に、ペンで書き込んでしまったため、論文の勉強を始めた時にとても邪魔でした、、、やはりこういう内容の書き込みは、後で消せる鉛筆等を使うのがオススメです。

おすすめの学習法

付箋

理論問題集で聞かれている部分を、付箋に書いてテキストに貼っていました。目的は、テキスト一元化です。問題集は文字の羅列で非常に覚えにくいですし、テキストを回転させることが大事です。ただし、問題集に載っている問題は大事な論点ですので、テキストを読む度に大事な論点を復習できるようにしていました。付箋だけを見ればアウトプットも可能です。

基準集の活用

財務理論の題名には基準集の番号が載っています。しかし、試験で配られる基準集には載っていないものもあります。そこで載っているものには該当の文章にチェックをいれることで暗記量を最低限にしました。目的は、テキストを読む際のメリハリをつけることです。

文章の暗記

採点基準を考えた場合、重要なところは点数が高く、修飾語には相対的に点数が低いはずです。そのため、私はとりあえず、文章の幹から暗記を開始しました。

ex 監査要点は、立証すべき目標である。以上！！

まず幹を覚えてから、次に大事そうな修飾語をおさえていくようにしました。

テキストへの書き込み

書き込みは基本鉛筆で、書き込みの中でも重要なものだけペンで書くようにしていました。私の場合、メモは、口語体で書く方が読んだ際に頭に入りやすかったのでオススメです。（関西人ならコテコテの関西弁で書くとか！）

レジュメをテキストに一元化

常に一緒に確認したい重要なレジュメがある場合には、テキストに貼っていました。これも、目的はテキスト一元化です。別でファイルを用意するとわざわざ開かないといけないので見ない時も出てくると思います。テキストに貼らなくてもいいと思いますが、テキストを開いた際に必ずそこにレジュメがある状態がベストだと思います。

受験生へのメッセージ

部活と大学と両立していたため、勉強時間は部活がある日は1日7時間程度、部活がない日は1日13時間程度でした。ですが、合格に1番必要なのは勉強時間ではなく、受かるという自信と誘惑に勝つことだと思います。

今まで色んな方々が5→8で受かってきているのに、自分が受からないわけない、努力すれば必ず受かるという自信です。自分に合った勉強法を見つけるには、どういう時に頭に入るか自己分析して、勉強法を探すべきです。

誘惑に勝つためには、どういう場合に自分が誘惑に負けているか自己分析して、相応の対策を取るべきです。自分の現実を真正面から受け止め、目標との差を常に意識して頑張ってください。応援しています。

2022 年目標 5 → 8 成功者

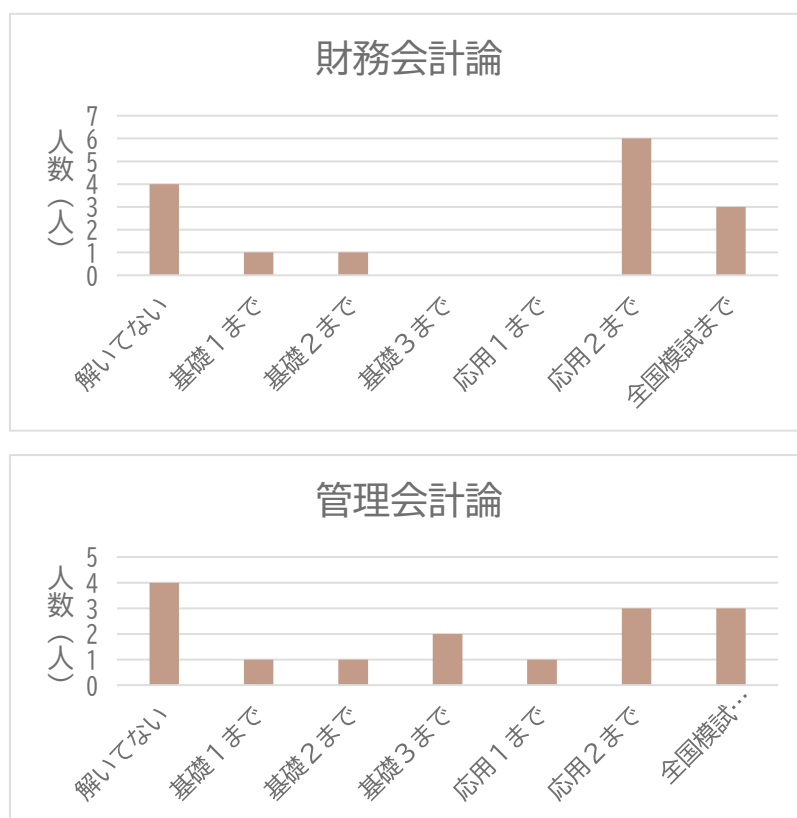
5 月短答までの論文対策アンケート結果

2022 年目標の 5 → 8 成功者のうち 15 名（日吉校ほか関東・関西）に、5 月短答までにどこまで論文の教材・答練を進めたかについてアンケートを取りました。

あくまでも「5 月短答前」までです。ご注意ください。

◎答練受講状況

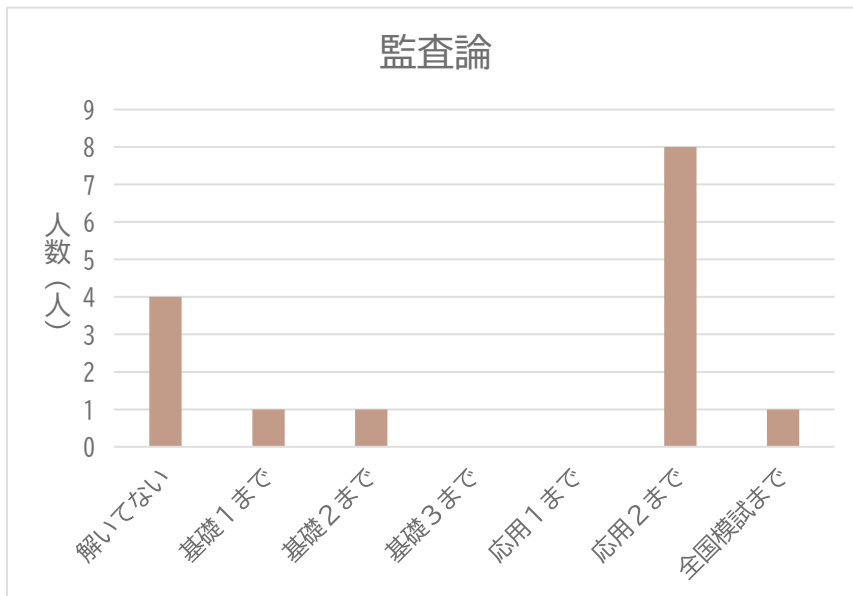
財務管理監査企業について論文答練を 5 月前に全く受けていない人が 4 名いましたが、4 名中 3 名は短期集中で学習当初から 5 月短答に向けて勉強していた人（12 月はお試しだった人）でした。



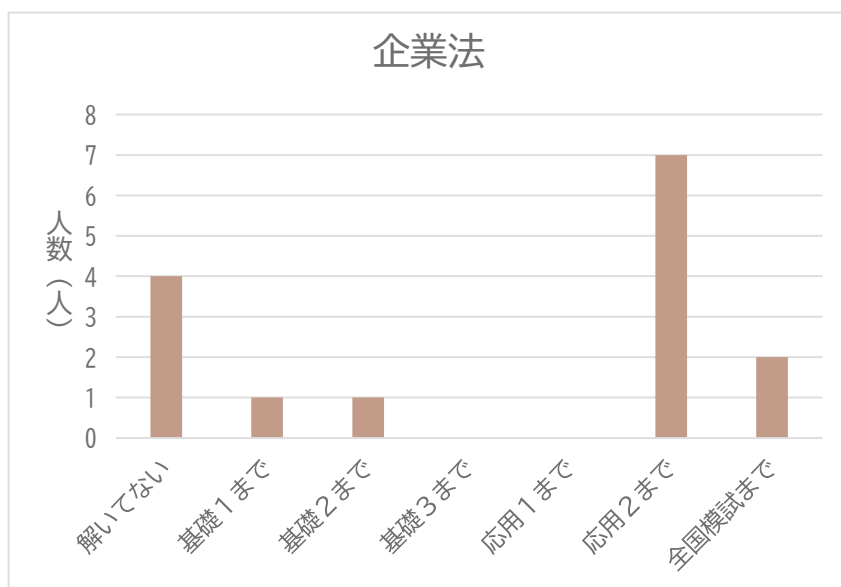
◎監査論・企業法の答練

応用答練まででテキストが概ね1周のため、4月頭までに

応用答練まで受けている合格者が多かったです。

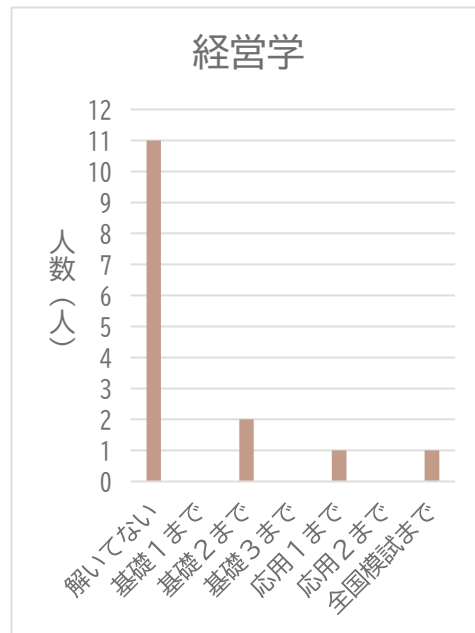
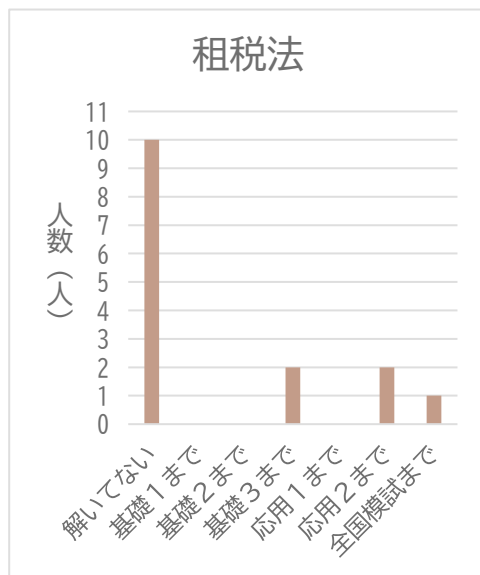


※企業法の論文答練は、テキストを見ながら受けている5月生が多い。



◎租税法・経営学の答練

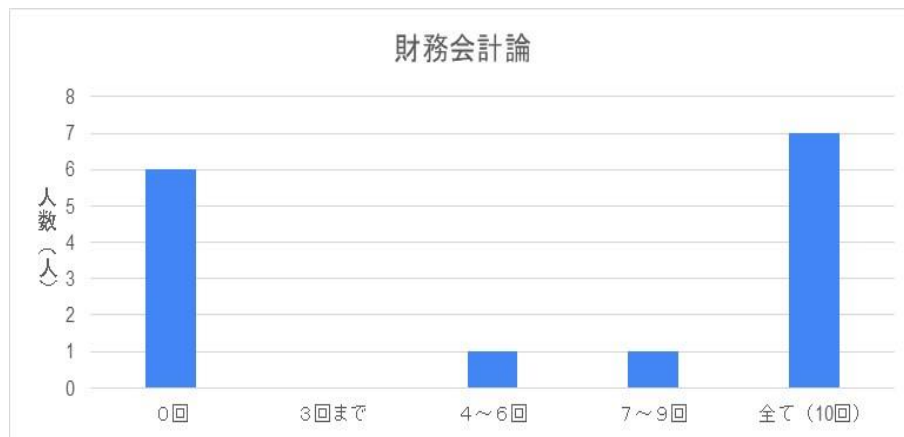
短答科目の論文答練を受験している場合でも、5月短答前までは租税経営の答練は手をつけていない人が多数を占めました。



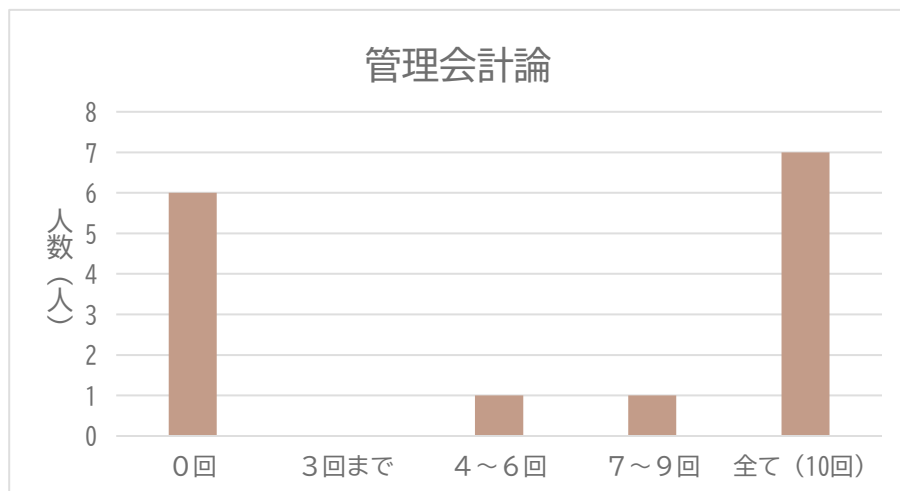
◎論文アクセス受講状況※5月短答までに財務管理は全10回

12月が試し受験だった3名を除くと、合格者12名中9名が、財務管理共に論文アクセス3月末までに途中までもしくは解いていました。

短答の教材の積み残しが無い人は、何回かだけでもアクセスを受けるようにすると良いでしょう。



↑財務0回 6名のうち、3名は12月が試し受験。



◎租税法5月短答前（～3月末）までの講義受講状況

租税についての受講状況は人によって異なりましたが、5月以降開始し、短期集中講義（全15回ほど+理論3回）で合格された方が15名中4名でした。短答科目強化の必要度合に応じて、自身にとって無理の無い範囲で進めましょう。

受講0回：4/15名（5月短答以降、短期集中講義受講）

法人税基礎（基礎マスター全9回）：11/15名受講

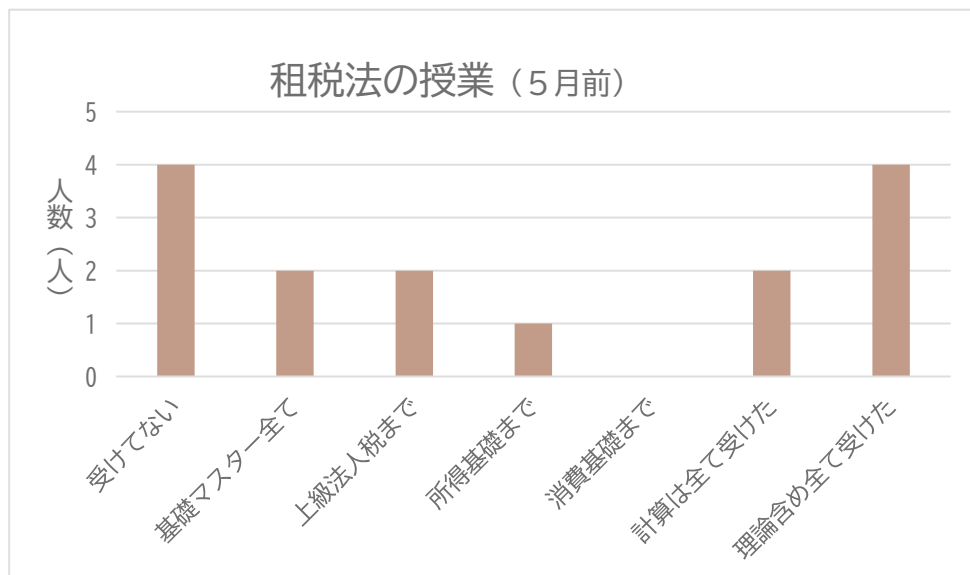
所得基礎（～上級4回目）：9/15名受講

消費基礎まで 8/15名受講

上級法人税（～上級11回目）：8/15名受講

計算部分全て（～上級15回目）：6/15名

上級理論（上級16～18回目）含め全て受講 4/15名受講



◎租税法 論文アクセス受講状況 ※23 目標は5月短答までに全9回

58 成功者でも、租税法アクセスは取り組んでいないか、少ししか触れていない方も多いです。5月短答前は、ご自身の出来る範囲で取り扱いましょう。

58 目標生が租税のアクセス答練を受ける場合は、解答時にテキストを頼りながらでも OK です。短答科目の強化を優先しましょう。

5月前まで 講義を受けた 11 名中

租税アクセス受講 0回 : 2/11 名

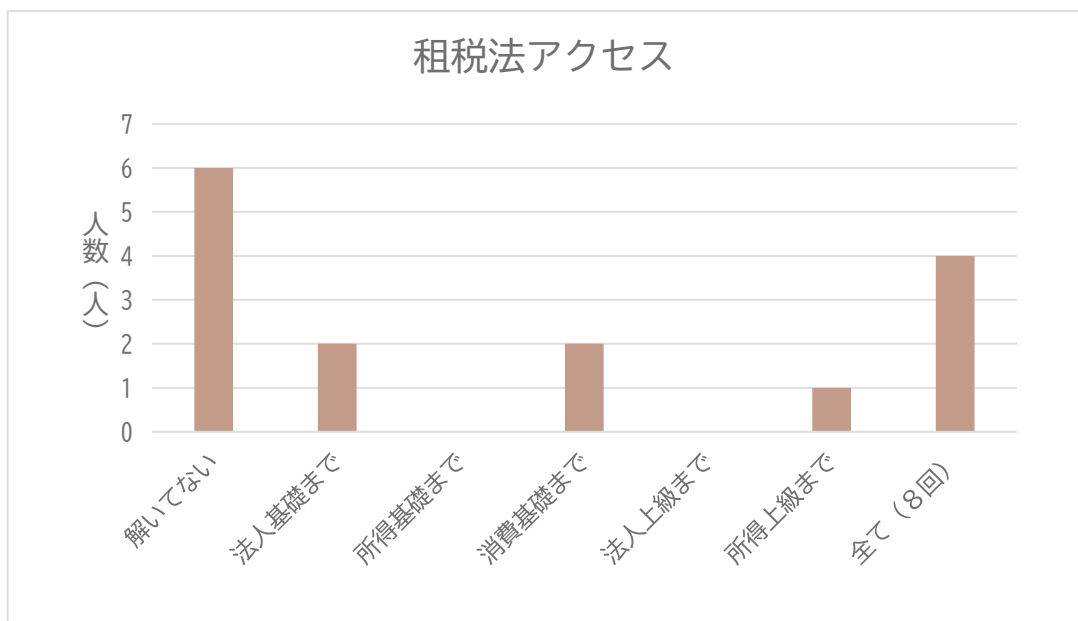
法人税基礎部分 (～2回目) : 9/11 名受講

所得基礎部分 (～3回目) : 7/11 名受講

消費税基礎部分 (～4回目) : 6/11 名受講

法人・所得上級部分 (～8回目) : 5/11 名受講

消費上級部分 (～8回目) : 4/11 名受講

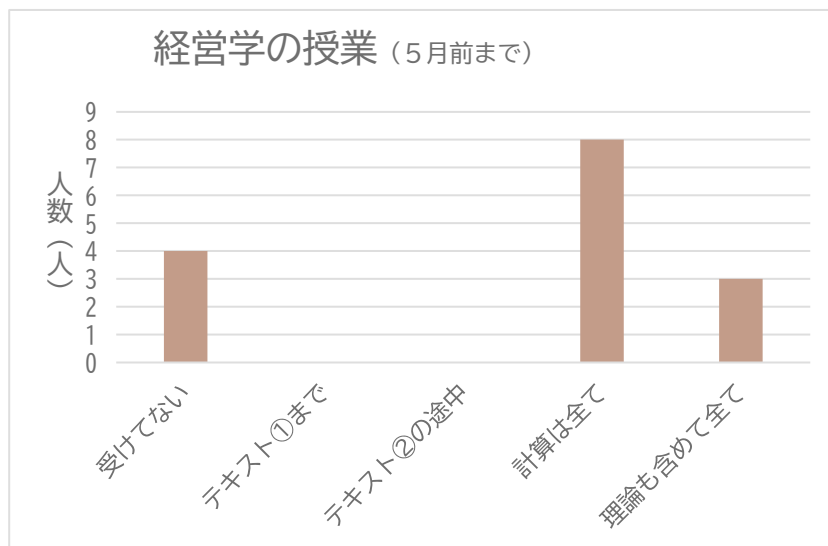


◎経営学5月短答前（～3月末）までの講義受講状況

経営学講義

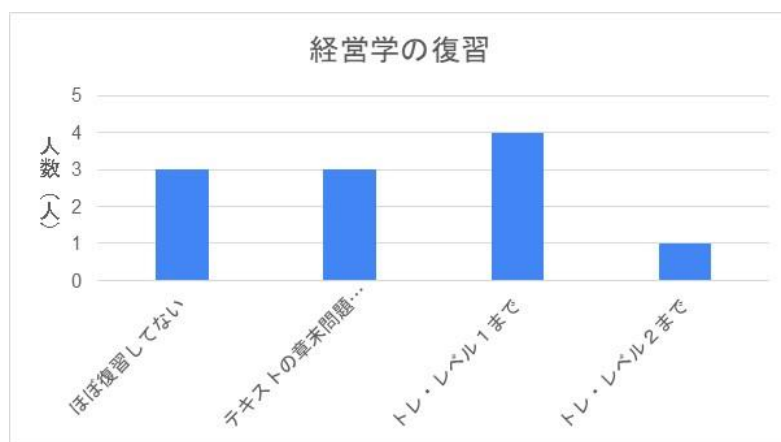
計算部分全10回を全て受講した合格者が8/15名、受けていなかったのが4/15名でした。

無理に最後まで講義を見るのではなく、講義を途中までにして、受けた講義の復習を翌日章末問題だけでも取り組むのもよいでしょう。



◎経営学について、講義を受けた9名の復習状況

講義を受けた9名のうち、3名は章末問題のみ、4名はトレーニングのうちレベル1まで取り組んでいました。※レベル2は、12→8月生であっても4月の模試以降に取り組むのがおすすめです。



【MEMO】